

利根運河とボート遠漕

一向島艇庫村から銚子までの遠漕の歴史―

古城庸夫（江戸川大学）

1. はじめに

千葉県北部の野田市・流山市・柏市と接しながら利根川と江戸川を結ぶ利根運河（約8 km）は、明治21年（1888年）5月から始まった開削工事によって、明治23年（1890年）6月16日に運河竣工式が行われ完成を見た。

しかし民間の資本によって作られた利根運河は、鉄道の完成や台風被害によって打撃を受け昭和17年（1942年）国有化され、現在では運河の役割を終えている。

本研究では旧制の大学及び高校と実業団の端艇部（ボート部）が、明治期から行っていた（銚子遠漕）の航路と時代背景を明らかにすることによって、ボート競技と遠漕航路周辺の人々とのつながりを明らかにすることを目的とする。

2. 初めての遠漕が行われた時代背景

隅田川でボートが漕がれるようになったのは明治10年（1877年）頃で、東京外国語学校（現東京外国語大学）の学生たちが拠金して造った2隻のボートは、学校の統廃合によって東京大学予備門と東京商業学校（現一橋大学）に受け継がれていった。

明治11年（1878年）11月16日に外国人で構成された東京漕艇倶楽部が、大橋と永代橋間で秋季競漕会を行うと、それに刺激を受けたように明治13年（1880年）体操伝習所（現筑波大学）が就業の余暇に操櫓法を練習し、明治15年（1882年）3月14日には石川島造船所に茗溪・昌平の2艇の建造を依頼した。

また同年11月21日には隅田川で海軍水兵の競漕が行われると、明治16年（1883年）6月には東京大学の学生たちが東京師範学校付属体操伝習所にボートレースを申し込み初めての対校戦が行われ体操伝習所が3戦全勝した。

またF・W・ストレンジの指導で陸上競技を始めていた東京大学の学生達が6月16日に陸上競技会を開催すると、明治17年（1884年）10月17日に東京大学のボート好きの学生団体である走舸組（注1）が隅田川で競漕会を実施し、多くの観客が見物のために押し掛け、以後隅田川では海軍と学生によるボートレースが大変な人気を呼んだ。この間海軍の軍人たちは学生のボートレースの役員を務めるなどの協力体制を取った。明治26年（1893年）3月20日、元海軍大尉の郡司成忠しげただが千島列島探検に5隻（カッター一隻・ピンネース2隻・和船2隻・オール漕ぎ帆走兼用艇）の短艇で向島から漕ぎだすと、東京大学、高等中学、尋常中学、日本中学、共立学校、学習院、高船学校、慶応大学、改玉舎、日本銀行、三菱会社などのボート数十隻が水上から見送り、同年には三菱、日本郵船、三井、日本鉄道による初めての会社対抗ボートレースが行われた。

また明治28年（1895年）には琵琶湖の天津で第一回大日本連合競漕会が行わ

れると、東京から大学や会社のボート関係者が選手や役員として参加するなど、日本国中がボートレースという新しい西洋スポーツに夢中になって行ったと思われる。

そのような社会的状況の中で初めての宿泊を伴った長距離の漕艇訓練が一橋大学端艇庫によって行われたのは、明治31年（1898年）1月のことで、航路は隅田川艇庫～荒川～江戸川～利根運河～利根川を経て銚子の大新旅館に向かったと思われる。

また銚子遠漕が行われた理由は、長距離を漕ぐことによって漕艇技術及び体力の向上を図りつつ隅田川の見慣れた風景を離れ気分転換を行いながらクルーとしての一体感を強めようとする狙いもあった。

3. 明治期の隅田川における艇庫建設

明治17年（1884年）以降、隅田川でのボートレースが盛んになり、多い時では一月に十数回の競漕会が行われるようになっていった。

それまで浅草橋の野田屋という貸しボート屋や、築地の小林という船宿にカッターやバッテリーなどという船を預け、各学校から学生達はボートソングを歌いながらオールを担いで徒歩で隅田川に向かっていた。

しかし明治20年（1887年）4月16日に帝国大学の向島艇庫が完成すると、明治45年までの間に13団体によって続々と艇庫が建設され、隅田川の吾妻橋を中心に一大ボート文化圏が形成されていった。

- 1) 明治20年（1887年）帝国大学（現東京大学）
- 2) 明治25年（1892年）学習院大学
- 3) 明治27年（1894年）第一高等学校（現東京大学）
- 4) 明治30年（1897年）高等商業学校（現一橋大学）
- 5) 明治33年（1900年）東京高等工業高校（現東京工業大学）
- 6) 明治33年（1900年）東京外国語学校（東京外国語大学）
- 7) 明治37年（1904年）早稲田大学
- 8) 明治39年（1906年）日本銀行
- 9) 明治39年（1906年）東京高等商業学校（現一橋大学）
- 10) 明治40年（1907年）明治大学
- 11) 明治40年（1907年）慶応大学
- 12) 明治42年（1909年）東京高等師範学校附属中学校（現筑波大学附属高校）
- 13) 明治45年（1912年）大蔵高等商業学校（現東京経済大学）

4. 大正10年頃の寺島地区の艇庫群

明治45年（1912年）頃には隅田川の吾妻橋を中心として、下流に第一高等学校と東京高等工業学校の2校と上流に10校と一実業団の艇庫が完成し艇庫村と呼ばれた。

この艇庫村と総称されたボート競技は艇庫に合宿所を併設していた関係で、他スポ

ーツの合宿所とは一味違う隣り合った密接な相互理解と相互扶助の精神を涵養する一大スポーツ団体を生むことになっていった。

そしてそのような良好な関係は、ボート競技が他競技に先駆けて大正9年（1920年）日本漕艇協会を設立したことにつながった。

このことは大日本体育協会の第2代会長に東京大学出身の岸清一（注2）が就任したことと密接な関係があると思われる。

この極めて純粋なオアーズマンシップ（注3）はボート部を卒業し社会人となつてからも相互扶助の精神として今日まで受け継がれている。

大正10年頃になると下流にあった2校の艇庫が上流へと移転したため、長命寺のわずかに上流にあった下流より一橋大学・東京帝国大学・第一高等学校（元日本銀行艇庫）の艇庫群が最下流となった。

新たに上流に建設された艇庫と他団体に譲渡された艇庫は、以下の七つである。

- 1、明治40年（1912年）慶応大学から日本郵船に譲渡
- 2、大正3年（1914年）慶応大学寺島地区に移転
- 3、大正中頃（不明） 日本大学
- 4、大正8年（1919年）静水会艇庫建設（現東京海上スポーツ財団）
- 5、大正9年（1920年）千葉医科大学（現千葉大学）
- 6、大正10年（1921年）学習院大学から早稲田高等学院に譲渡
- 7、年代不明 野口造船所

こうして、言問団子の上流にある現一橋大学艇庫の川上には、14団体の艇庫と競技用ボートも作成していた造船所も加わった15の団体で、明治期よりもさらに濃密なオアーズマンシップが形成されていった。

5. ボート遠漕

明治31年（1898年）1月に、一橋大学端艇部によって銚子遠漕のための航路が開かれると、明治35年（1902年）12月に一橋大学が再び銚子遠漕を行った。

すると同年12月に早稲田大学が柴又遠漕を経て、12月22日から1月8日までの銚子遠漕を成功させたことによって、他団体の遠漕が盛んにおこなわれるようになっていった。

また明治42年（1909年）には一橋大学・早稲田大学・第一高等学校・高等師範学校・明治大学の5校が遠漕を実施し、時には練習形式の競漕を行ったり旅館に同宿するなどの状況が生じていたので、旅館関係者とオアーズマン同士の独特の友情が育まれていったと思われる。

さらに遠漕の航路は銚子以外にも開かれ、短期遠漕としては柴又・松戸・流山・野田、中期遠漕としては境・潮来などが行われ、平成18年（2006年）までに143回の遠漕が数えられている。

それら遠漕の時に宿泊した旅館名は銚子の大新旅館を含め合計23個に上るが、現在ではその多くが廃業しているなかで、平成20年(2008年)9月に松戸市で営業していた旅館海老屋の宿泊人名帳(昭和14年~15年)が発見された。

このことにより学徒出陣記念遠漕が実施されていた事実が判明したが、その内容については今後の研究を待たなければならない。

注1. 走舸組

明治16年(1883年)頃、ボートを漕いでいた学生達によって、多くのクラブが生まれたが、代表的なものは以下の三つである。その後全クラブの統合機関として生まれたのが、走舸組である。

1) MBC (Member of Boat Club) 代表 日高真実 山口鋭之助(学習院長・宮中顧問官) 林権助(駐英大使・宮内省御用係) 他

2) ORC (Oriental Rowing Club) 武田千代三郎(県知事・大日本体育協会副会長) 神崎東蔵(弁護士) 他

3) SRC (Sumida Rowing Club) 岸清一(日本漕艇協会会長・大日本体育協会会長・IOC委員) 他

注2. 大日本体育協会

武田千代三郎・岸清一・杉村陽太郎(国際連盟事務局長・フランス大使・IOC委員・一高、東京帝国大学のボート選手)などボート関係者が多く在籍していた。

注3. oar smanship

oarとはボート競技のオールのことで、漕手としての技量全般を指しスポーツマンシップに繋がる。

引用文献

近代体育スポーツ年表 岸野雄三他

大日本体育協会史 大日本体育協会

日本体育協会50年史 日本体育協会

ボート100年 宮田勝善

スポーツ八十年史 日本体育協会

東京大学漕艇部100年史 東京大学漕艇部

東京大学漕艇部50年史 東京大学漕艇部

一橋ボート100年の歩み 一ツ橋大学漕艇部

力漕100年 日本大学ボート部

明治大学体育会端艇部100年史 明治大学端艇部

利根運河 建設省江戸川工事事務所

東京工業大学端艇部100年史 東京工業大学端艇部